

# そろり種まき、実らせ収穫・PR

～タスクフォースと広報展開～

令和3年10月25日  
企業局

## 1. タスクフォースの取組と成果

### ○タスクフォースの取組（創意工夫の源泉）

（単位：千円）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
主な取組	<ul style="list-style-type: none"><li>・維持管理直営化</li><li>・企業債借入条件の変更</li><li>・電力ピークカット契約</li><li>・ポンプ設備の運用変更</li><li>・浄水発生土の利活用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・維持管理直営化</li><li>・電力ピークカット契約</li><li>・電力の長期契約</li><li>・低圧電力の契約見直し</li><li>・浄水発生土の有価販売</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・維持管理直営化</li><li>・維持管理業務の一括発注</li><li>・電力ピークカット、長期、デマンドレスポンス契約</li><li>・低圧電力の契約見直し</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・維持管理契約の見直し</li><li>・電力ピークカット、長期、デマンドレスポンス契約</li><li>・監視装置のライフサイクルコストの削減</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・購入対象債権の拡大による運用益増大</li><li>・水質検査手法の見直し</li><li>・高圧電力の長期一括契約</li><li>・浄水発生土処理業務の発注方式見直し</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・購入対象債権の拡大による運用益増大</li><li>・ビルドメンテナンス契約</li><li>・浄水場設備設計の直営化</li><li>・高圧電力の長期一括契約</li><li>・デマンドレスポンス契約拡大</li><li>・浄水発生土処理業務の発注方式見直し</li></ul>
収支改善額	106,704	100,049	73,110	127,529	239,934	312,223

毎年取組が拡大し飛躍的な成果！

R3も着々と！

※工水・水道事業関係

H29  
73百万円

H30  
127百万円

R1  
239百万円

R2  
312百万円

R3～  
毎年4億円へ！

## 2. 取組成果の広報展開①

### ○メディアへのきっかけづくりはトップ広報

- ・ **広報は事業の実施と同じ位大切**であることから、**トップがメディアのキーパーソンにダイレクトにアプローチ**し取材誘致
- ・ 次長、参事、各課長が「広報官」となり取材に対応

#### パブリシティ実績

- R 2 静岡新聞、読売新聞などに計34回掲載 **<広告費換算888万円>**
- R 3 静岡新聞、日経新聞などに計19回掲載 **<広告費換算709万円>**

※ R3は4月～10月まで

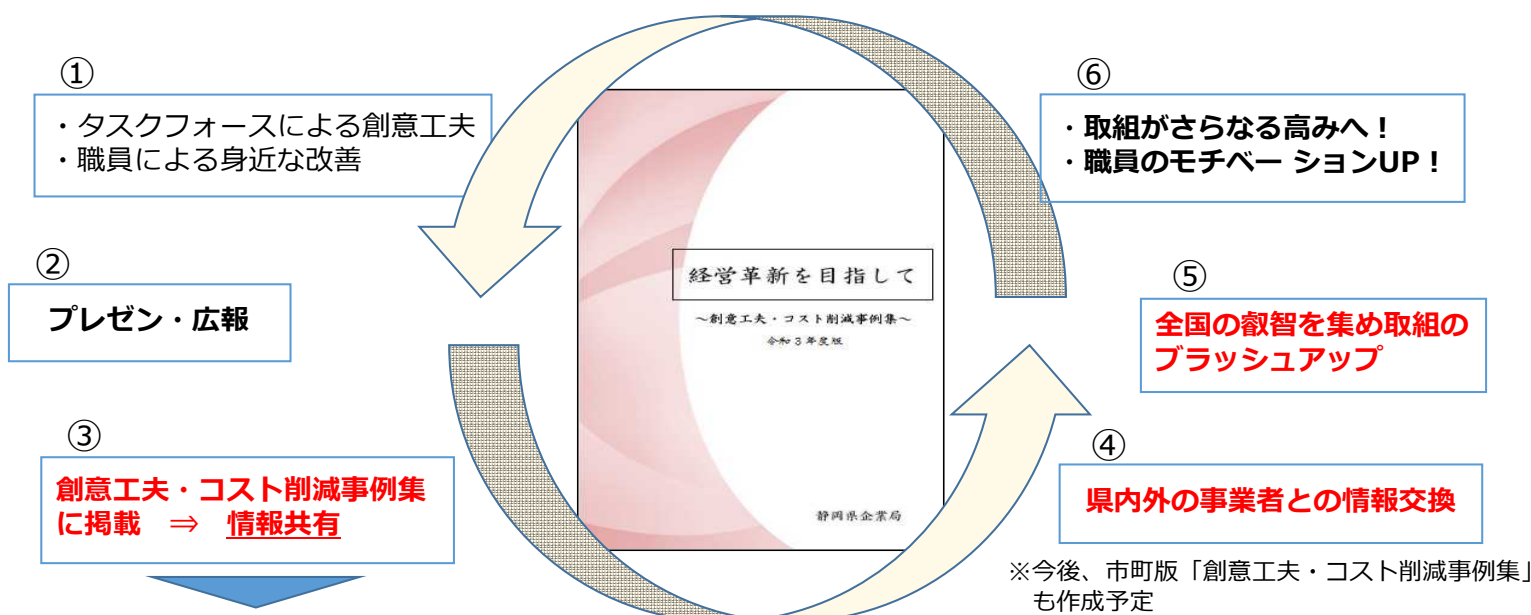
#### 周囲の反応

- ✓ 「新工法の採用や新たな契約方式の導入など、民間企業と比べてもレベルの高い取組である。」（企業局経営評価委員会）
- ✓ 「企業的な観点で努力していることが分かる。」（産業委員会）
- ✓ 「徹底した企業努力によって大きな成果が出ている。」（定期監査）
- ✓ 東駿河湾工水、富士川工水の料金改定（案）に対し、東駿河湾工水ユーザーの95%、富士川工水ユーザーの100%が同意（初回説明会后）

## 3. 取組成果の広報展開②

### ○経営革新の好循環のシステム化

- ・ タスクフォースの取組を「事例集」にまとめ局内で情報共有（紙に書く）
- ・ さらに、県内外に発信し、取組をブラッシュアップ



創意工夫・コスト削減事例集（R3年版） 29件の取組を掲載  
中長期では 約1,011億円のコスト削減、収益確保

# 4. 羽ばたく創意工夫

## 掘削工事を省き経費削減

～地下水の判別方法を確立し、100万円の漏水調査費削減～

### 現状

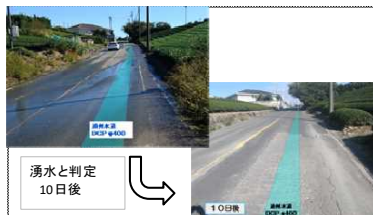
- ・地表に滲み出す水の漏水元の特定には、掘削調査が必要
- ・掘削調査には100万円の費用のほか、職員待機や交通規制等も必要
- ・掘削調査の結果、企業局の水ではないことが判明することも

### 実践

- 水質管理センター技術者が、水質検査を応用した漏水判定手法を確立
- ・500回以上の分析結果より、工水・水道・他のイオンの傾向を把握
- ・土壌の特性も鑑み、精度の高い漏水元判定の手法を確立
- 日水協の全国大会で、事例発表したところ反響が大！
- 新たな判定指標物質を見い出し、給水先である市水道との判別も可能に！**

### ポイント！

- ◎土壌の影響を受けない成分を特定
- ◎漏水元判定の精度向上
- ◎試掘が不要



### 効果

- 5年間で17箇所の掘削が不要、1,700万円の工事費削減！
- ・交通渋滞・騒音振動の回避、廃棄物の抑制等、社会的影響も低減
- ・汎用性を高めたことにより、**県内市町と調査受委託の協定を締結** (R3.3湖西市、R3.4森町と締結、今後さらに拡大予定)

○創意工夫「**地下水の判別方法の確立**により掘削工事を省き経費削減」が、日本水道協会主催の**2021水道イノベーション賞特別賞を受賞！**

※全国1,334の水道事業者の中から大賞1件、特別賞2件

**身近な取組が全国へ大きく羽ばたく！**

出典：創意工夫・コスト削減事例集より

# 5. 多様な広報展開① (大学生向け講義)

企業局の事業を若者（静岡大学人文社会科学部の学生）にもPR  
～「**まちづくり**」と**工業団地の整備**」をテーマに行政学講座として講義～



### アンケート結果

講義及び企業局の事業について  
**9割近くの学生が「理解できた」と回答**

### 学生の声

- ・県庁の仕事の多くは、決められた手順通りに進めていただけかと思っていたが、企業の性質をとりこむことで、これほど**柔軟な業務内容を持っていたことは驚きであった**。
- ・県外出身者のため、静岡県のことを詳しく知らなかったが、製造業が強く、一人当たりの県民所得も国内トップレベルであることがわかり、**静岡県の凄さを実感した**。

**静岡産業大学からも講義の依頼あり！**



## 6. 多様な広報展開②（造成現場から）

### 富士大淵工業団地の現場見学会

■ 多方面への情報発信～地域から愛される工業団地を目指す～



富士特別支援学校による現場見学会（R3.10.18）

#### 【歓びの声】

##### 生徒さん

「ぼくは、ショベルカーに乗ってタンケンしたり、いっぱい乗り物を見てうれしかった。」

##### 先生から

「生徒に貴重な体験をさせることができ感謝。また、工事現場の理解が深まった。」

#### 【取材メディア】

- ・ NHK（R3.10.18放映）
- ・ 読売新聞（今後掲載）
- ・ 静岡新聞（R3.10.20掲載）
- ・ 建通新聞（今後掲載）
- ・ 富士ニュース（今後掲載）

県立富士  
特別支援学校

## 7. 今後の展開

### ○新たな課題への対応

- ・ 脱炭素に向けた取組  
施設の統合、更なるダウンサイジング、省エネ機器導入  
➡ 2030年にCO2を50%削減へ
- ・ 気候変動による影響への対応  
浄水発生土の有価販売等（毎年1億円超のコストカットへ）
- ・ アフターコロナを見据えた展開  
DXの推進による浄水場の効率運用、  
高付加価値型の工業用地の供給 ➡ 豊かなくらしのデザインング
- ・ 効率的な資金運用

多様な広報展開により事業をブラッシュアップ

チーム企業局で新たな価値づくりに邁進します！